

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
公衆栄養学概論 Public Nutrition		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	必修	(栄養士資格必修)	栄養士養成課程限定
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
栄養士資格取得に必要な科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
栄養士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
川田 容子	非常勤講師室	木曜日 5時限目講義前・終了後		授業中に指示します
授業の概要				
公衆栄養学とは何か、その目的・内容について理解する。現代の日本の健康、栄養問題の現状、課題とそれらに対応した栄養政策について理解する。地域等の健康、栄養問題とそれを取り巻く諸問題に関する情報を収集、分析し、総合的に評価判定する能力を身につけることを目的とする。				
授業の目標				
①公衆栄養学の基本事項を説明することができるようにする。 ②健康・栄養問題とそれを取り巻く社会的要因に関する情報等を分析することができるようにする。 ③自ら課題を抽出することができるようにする。 ④実施すべき公衆栄養プログラムを選択することができるようにする。				
授業の方法				
各授業テーマに沿った資料を用いた講義、より理解を深めるための視聴覚教材を用いる。 課題を授業内レポートとして提出させることで理解度を確認する。				
学習の成果（学習成果）				
①自分の視点で栄養課題を考え、自ら課題を抽出することができる。 ②栄養士の視点から、必要な公衆栄養プログラムを選択することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(授業のねらいと進め方・成績評価等の説明) 公衆栄養の意義と目的 公衆栄養活動の歴史 【講義】			
第2回目	健康・栄養問題の現状と課題① 長寿社会における人口問題と健康の課題 【講義】			
第3回目	健康・栄養問題の現状と課題② 食の変化・栄養の課題 【講義】			
第4回目	健康・栄養問題の現状と課題③ 食環境の課題 【講義】 *レポート提出 (第7回目の授業日)			
第5回目	公衆栄養政策 公衆栄養行政における栄養士の役割、関係法令の位置づけと栄養士制度 【講義】			
第6回目	公衆栄養政策 国民健康栄養調査 健康づくりのための各種指針 【講義】			

第7回目	公衆栄養政策 国の健康増進基本方針と地方計画 【講義】
第8回目	公衆栄養政策 食育推進基本方針と地方計画 【講義】
第9回目	公衆栄養政策 諸外国の健康・栄養問題と施策 【講義】
第10回目	栄養疫学 栄養疫学の概要 調査と評価 【講義】
第11回目	栄養疫学 食事摂取基準 【講義】
第12回目	公衆栄養マネジメント① 公衆栄養の考え方 プレシード・プロシードモデル 【講義】
第13回目	公衆栄養マネジメント② アセスメント 目標の立て方 社会資源の活用 【講義】
第14回目	公衆栄養プログラム 【講義】
第15回目	公衆栄養プログラムの実際 (食環境と栄養成分表示、生活習慣病対策) 【講義】
事前・事後学習	事前に指定のページを読んでおくこと。まとめのワークシートを見直して復習すること。
成績評価の方法と基準	
評価の領域	割合 評価の基準
授業参加態度	10% 授業に臨む態度で評価する。必要な内容はきちんとノートをとる。わからない点は積極的に質問する。授業中の居眠り、不要な離席、不必要なおしゃべり、携帯電話の使用などがある場合は減点となる。
レポート	20% 評価基準は、S=4、A=3、B=2、C=1、D=0とする。課題に対して問題を的確にまとめ、自分の考えを明確に記載すること。
調査報告書	
小テスト	
試験	70% 点数による評価とする。(詳細はガイダンス時に説明する。)
発表内容(態度含む)	
その他	
教科書と参考図書	
教科書 ウェルネス 公衆栄養学(医歯薬出版株式会社) 国民健康・栄養の現状 概要版 -平成29年厚生労働省国民健康・栄養調査報告より- 第一出版 参考書 日本人の食事摂取基準	
履修上の留意点・ルール	
●実務経験(職種:管理栄養士、職歴24年) 目的意識・課題意識をもって授業に臨むこと。食べ物や飲み物を教室に持ち込むことは禁止。携帯電話の使用は禁止。	